

洛陽工唐橋校舎あす公開

伏見工業高（京都市伏見区）との再編統合が進む洛陽工業高（南区）は26日、現唐橋校舎を一般公開する。同校舎は来年4月に取り壊し作業が始まるが、「母校を最後に一目見たい」と卒業生らから問い合わせが数多く寄せられているため、公開することにした。

思い刻むカード用意

少子化による生徒数の減少などを理由に、伏見工業高と同校が統合し、今年4月から新たに京都工学院高（伏見区深草）として再スタートした。

2、3年生は唐橋校舎で学んでいるが、来年4月から全生徒が新校舎に移る。

これに伴い1935年に建築された唐橋校舎本

館も取り壊される。情報を聞いた卒業生らが見学に訪れていたが、バラバラで訪問するケースも多かったという。

同校は「歴史のある建物で、卒業生のほか、多くの一般の人にも見てもらいたい」として一般公開を決めた。

公開は午後1時半から4時半までで、講堂や教室、機械加工や染織の実習室などを見学できるほか、同校舎への思いをつづれるメッセージカードも受け付ける。記入者には校章をプレゼントする。同校の牛田豊嗣校長（57）は「建築当時からほぼ変わらない校舎で、懐かしい雰囲気味わってほしい」と話している。問い合わせは同校☎075（691）3161。

（増山遼）

「母校を最後に一目見たい」



昭和初期に建築された当初の姿をとどめる唐橋校舎
本館の正門（京都市南区・洛陽工業高）